

いろいろなながれ



村田修子

○ながれ

毎日の保育のやり方について一口にいうと、どこまでも子どもの活動を中心に行っています。それに伴って、先生の側の計画や準備やくふうがきれながら、明日の、また一週間の、またあるまとまった期間の計画ができていきました。

けれども、たとえば一週間の計画の中の「あした」の計画は、その前までの子どもたちの動き方や展開のしかたによってかわってきますから、必ずしも先生の敷いたレールの上をすべっていかなくたってしまふことが多いのです。

こういう、子どもの活動を中心とした扱い方をはたから見ると、「つかみどころのない・とりとめのない・けじめのない…」というような感じに受取れるでしょう。けれどもこういうのはこびの保育の

やり方だからこそ一日を振り返ってみたとき「きょうはよく流れた一日だった」とか、逆に「流れ方がまずかった…」という反省がびったりとするのです。

これが子どもの動きを余り考えずに、計画したとおりに、先生が中心になって引張っていくのであったならば、計画それ自体はいつもよく流れますし、内容としてあげられている六つの領域も落ちがなく繰り込むこともできて、先生としては満ち足りた感じを味わうことでしょうが、立場を逆にして子どもの側からみた場合は必ずしも子どもの活動が楽しいふん囲気のうちにすすめられたり、また次の活動に発展する意欲に満ち満ちたよい流れが見られることは少ないのではないのでしょうか。

ですから、先生の計画の中で、または自発的に、子どもたちがせいっぱい楽しく活動し、その中でいろいろな経験をしながら、年令相應の事柄を身につけていくことが気持ちよくできたときに、そしてまた多くは組単位に一日の保育が朝から帰るまで、つかえたり途切れたりすることなく、子どもたちの活動が展開されたときに「よく流れた」というようにつかいます。このことばは、ひとくちで本当にびったりと表現することができます。

前に述べたように「一日の流れ」という使い方がよくされるわけですが、このほか「流れ」には一年間の流れとか、子ども個人についてみた場合などいろいろな見方の流れがあるわけです。

たとえば、四才のとき新しく入ってきたAさんは、三才のとき

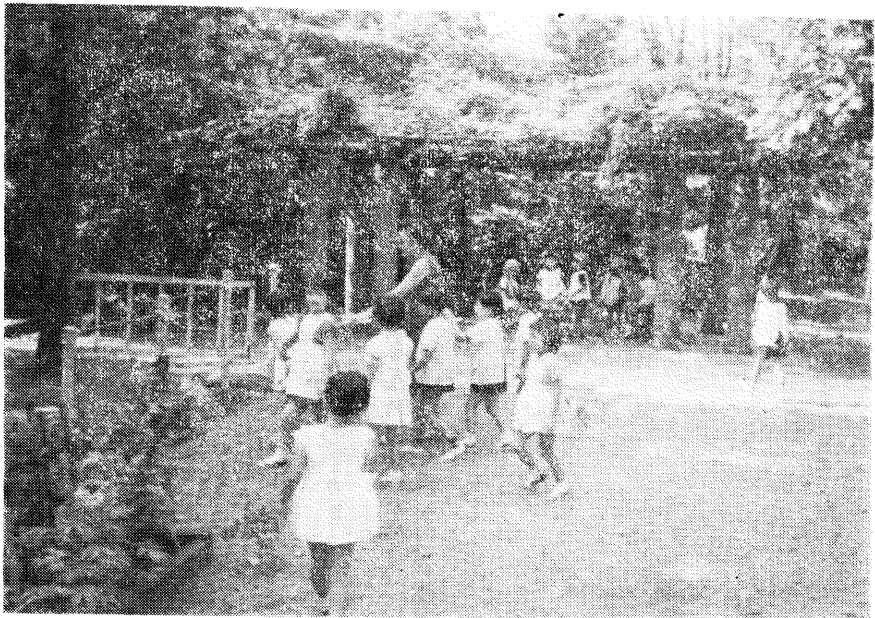
に通っていた幼稚園では先生の指導するとおりに模範生として生活していたのに、当園にかわつたためにその指導方法の違いに不安でたまらず、活動しなくなったり、雨をふらせたり、親から離れなくなつてしまいました。暫くそういう状態が続きましたがこういうやり方に慣れてきた二学期からは、前に増して活発になり、人がかわつたようにいつもにこにこ何にでも自分から積極的に当つていくようになりました。

これなど流れが途中でとまり、時期をへてまた順調に流れるようになった、ということが出来ます。

そこで現在の自分の組の子どもたちについて、受持ったときから今までのいろいろな場面での流れをあげてみます。

○三年保育のとき

女児七名、男児八名でしたが、みなそれぞれ個性のはっきりした入が多い組でした。けれども、「家庭と余りかわらないふんい気の中で楽しく集団生活に慣れさせ、一人ひとりに自分をせいっぱい出させる」という大きいねらいに向つて進む流れにのれない人はなく、いよいよそれぞれの持ち味がおもしろく展開されていきました。適当に三才児らしい夢をもっているのに加えて、さすがに現代っ子であることをいろいろの面で感じさせられました。三学期に入つてからはその流れがよくいく日が多くなり、余り問題がありませんでした。



「せんせい、せんせい」

○四才児になつて

四才児になると、前からの人に女十一名、男十名の新しい人を加えた組ができあがりました。

四月中は前からの人と新しく入園した人とがなかなかうまくいかないで、子どもの活動の流れがいくつにもなりました。また、先生の計画のもとに「うまくいった」と思っていた保育の流れが、自分のことを聞いてもらいたくして席を立つて出てくる人や、時をかまわず水道のところへ水いたずらにいく、というような個人々の勝手な行動のために一瞬にしてくずれてしまうことの方が多い状態で毎日がくれました。

五月に入ると、興奮状態で過していた数人の人たちも次第に普通に近くなり、集団生活というものがいく分わかったようすも示すようになりました。それでもその流れは前からの人と新しい人に分れ、遊べる人たちは園のなかじゅうせましとばかり動きまわり、遊べない人たちは先生の前後左右にくっついてまわりました。(写真①)

六月も半ばをすぎると、生活全体が軌道にのってそのテンホはゆっくりですがまあまあ普通に流れることが多くなりました。この頃の気持ちよく流れた一日に例をとってみます。

○よく流れたある日

五月十六日(土) 朝きた人から風車を作り、そのあとそれで遊ぶ予定。

九時十分前頃すでに登園していた五人ぐらいの人の前に風車を置く。それをみつけて関心を示したので、すぐその機会をとらえて風車の話しなどをして製作にとりかかる。次々と登園してきた人は手洗いやうがいすませたあと作っている人のところへよってきて、自分にもできそうなことや、作ったあと遊ぶ楽しさや自分のものにしたという気持ちから次々と製作へ参加してくる。そして風車のでき上った人から庭へ出ていき、走りながらまわっている。はじめの頃は製作する人数も手頃なので扱い易いが、だんだんに手がまわらないほどの人数になりほとんど、全員が自分たちから「それを作る」といい出して参加する。自分の風車を持った人は得意気に庭に出て、「自分のが一番よくまわる」などと走りまわっていたが、運動量の大きいことや、たまたま気温が急に高くなってきたために、涼しいへやに入ってきて、まだ風車を作っている人と並行してそのかたわらでグルーフごにいろいろの遊びが展開され出す。

- ・人形劇の小さい舞台で三人がしきりに人形を動かしては、見物やうのくの人に見せている。
- ・その傍では人形劇の切符売場を作った二人が小さい紙に色鉛筆で何か書いていて、切符を買いにくる人に売っている。
- ・ブレイヤの置いてある机の前に男の子が四人こしかけて、同じレコードを何度も繰り返しかけては楽しんでいる。(写真②)
- ・女の子二人はその曲にあわせてハンドカスタややらずをならしながらレコードにあわせて、大変自由に、思ったとおりのダンスをし



て楽しんで
いる。

・その傍で、
ダンスをす
るのは恥か
しげな女の
子三人が楽
器をならし
て伴奏をし
ている。

・このあいだ
に風車ので
き上った人
たちは庭や
廊下や遊戯
室で風車ま
わりに余念
がない。

時間半、兎角うまく流れないことの多い五月半ばとしては、グルー

プ遊びがとてもうまくいっている。
けれども、さすがに十時半頃になると、早くでき上った人たちが

あきてきたらしい空気が感じられてくる。そこでみんないっしょにかたづけをして、遊戯室に行くためにへやに集まる。順々に一列にならんでいくわけだが、みんな自分が一番になりたいので、なかなか一列になれない。ときどき自分を押えることができない人が走り出す。「そういうことはいけない」と思っている人たちが大声をだしてとめる。そういつたざわざわしたふんい気だが、「遊戯室にいつてなにかしよう」とみんなで一緒にすることを楽しみにしている気持ちがよくくみとれる。ここでは先生の計画のもとに音楽にあわせて体を充分に動かす。きょうは一番大好きなスキップをするのに、片手を持ってやったので、いつもと違った新しい経験が案外おもしろがられて、「もっとする、もっとしたい」といい、予想したよりも一層興味深げである。十一時十五分にへやに戻り、十分後に玄関でさようなら。

字として書いてみるとたいして目新しい一日でもないのに、日誌の片すみに「近頃で一番ころよい日」と書いてあるのを今みると、いかに四才児のはじめの時期がむずかしいか、よく流れることが少ないかがあらためて思われます。

私共としては、先生の計画と幼児の活動があいまって毎日がよく流れるようにいつもいつも心掛けているのですが、そこにいろいろなながみがあって、先週は調子がよかったのに今週に入ったら何事もすべてうまくいかない、という時があります。

○よく流れない経験

夏休みのあとから気候のよかった二期の前半は、友だちとのむすびつきが深くなったし、外での遊びも活発にやられていたし、保



あ
や
と
り

育の計画もまあ具合がよくはこんでいました。ただ朝きてから遊びに入っていくのが今まで経験した人たちよりもゆつくりなので気になってはいましたが、活動が始まると大変活発ですし、創造的な遊びにも発展するので、「みんなスロースターター

なかしら」などと実習生とじょうだんをいっていました。

ところが二期期の末近くスチームが通り出し、へやの中で遊ぶ機会が多くなった頃、朝きて手洗いやうがいをするまで、遊びに入るでなく、自分のいつも遊んでいる相手がいるのを待つように、ただつっ立っている人が前よりも一層目につくようになりました。庭の遊具でならまあ不自由なく遊びに入れる人たちまで、みてみると、きてからへやの中を二十分位はぶらぶらあるきまわって、すでに遊んでいる人の遊びを見てもわたり、私のまわりをいって、机によりかかっているのです。その結果おもしろい経験をしました。

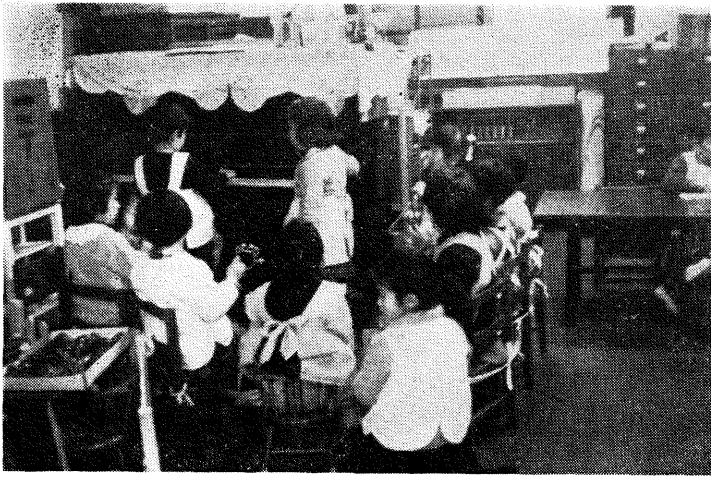
その中の女の子の一人が紐をもってきてあやとりをしました。するとそれがだんだんに遊びに入れないでいる女の人の間にひろまって、いろいろなあやとりができるようになりました。それが遊べる人の間にまで広がって、毎日のように紐をねだられました。いままで受持ったまん中の組で、これだけあやとりあそびがはやって、しかもじょうずにやられたことはありません。

いままでにこういう遊べない人が一組に何人かはいる経験を持っていましたが、こうたくさんそろったのははじめてでした。特に一年の半分以上をすごしてきたこの時期に、こういった状態が再びあらわれてきたのは驚きました。

自分からすすんで遊べなかったり、遊びの中に入っていけないのですから、逆に先生の側からの保育計画はたいいよく流すことが

できました。

その時期にした「おもちゃやさん」の用意をしたときの例をとってみますと、私が紙や箱を朝いじっていたりしますと、多くの人が



みんなで合奏

「それなりにするの」とか、

「それしようか」というようなことを順々にいってたりして「これをさせよう」という計画に大した苦勞なしに大部分の人がのってき

てくれてしまうのです。

けれども私はこのような先生の計画による流れよりも、子どもの

自発的な活動がよく流れる方がずっとうれしいことですし、貴重なことだと思えます。

〇ころみ

そこで三学期のはじめに次のようなことをやってみました。朝きたときのふんいきをかえることがぜひ必要だと思ったからです。四人ぐらいになったら子どもにおもしろいことをいかけたり、おいかげごっこをきっかけを作るようにして、へやの中で鬼あそびなどをして、わざとがさがさとしたふんいきになるようにしました。その効果は予想したよりもずっと早くあらわれて、あとからきた人もうちとけたふんいきのためにすぐに遊びに入れますし、その新らしく入った人たちを加えて一団となって遊戯室や廊下などへ出ていくというように活動の範囲も広くなりましたし、グループの人数もふえてきました。

これを考えてみますと、結局朝早くくる人たちが割合に口数の少ない人だったことや、きちんとした性格の人や、まだよく遊べない人であったことなどが原因となっていたための結果だったようです。一年たつたいま、やっと普通の姿になってきました。この先、こういうよどみのないように、毎日々の流れや個人々の流れ、また集団としての流れがうまくいくように願いながら、そして流れなくなつたときは早く原因をみきわめてそれをとり去るようになっていこうと思っています。